

(資料2) 所内公募型研究制度の実施状況

1. 平成21年度奨励研究

年度2回の募集により、先見的・萌芽的研究18題、長期モニタリング2課題の計20課題を実施した(このうち、前期募集分は前年度に課題採択された11件、後期募集分は本年度に課題採択された9件である)。

タイプ	課題代表者	研究課題名	研究期間	年度予算額(千円)	事前評価結果					評価人数
					5の数	4の数	3の数	2の数	1の数	
(前期募集分)										
先見的・萌芽的研究	渡邊英宏	高磁場MRIを用いたヒト脳内非侵襲代謝物定量計測法の研究	1年間	3,000	5	11	0	0	0	16
	河地正伸	初めて東京湾に出現した有害植物プランクトンChattonella marinaの定着と拡散経路の解析	1年間	2,780	2	12	5	0	0	19
	高澤嘉一	多連自動サンプリング装置の開発と大気中の残留性有機汚染物質のモニタリングへの適用	1年間	3,000	2	8	7	0	0	17
	中島英彰	シベリアにおけるオゾンゾンデマッパ観測による春季極域オゾン破壊量の定量化	1年間	3,000	0	11	7	0	0	18
	加藤和浩	同位体希釈法によるウルトラマイクロスケール放射性炭素分析法の開発	1年間	3,000	0	10	7	0	0	17
	西村典子	アテローム性動脈硬化症および骨粗鬆症を指標とするダイオキシン類の老化促進に関する分子生物学的解析	1年間	2,950	0	9	8	0	0	17
	川嶋貴治	鳥類卵母細胞の体外成熟および体外受精に関する研究	1年間	3,000	0	10	8	1	0	19
	吉兼光葉	トンボ中のフッ素系界面活性剤蓄積傾向調査と環境モニタリングへの活用	1年間	2,650	1	7	8	1	0	17
	井上真紀	外来アリのスーパーコロニーにおける遺伝的構造とコロニー間闘争の関係解明	1年間	2,000	0	7	8	2	0	17
				小計	25,380					
(継続)	林誠二	高窒素負荷を受ける森林集水域の林内環境が窒素流出抑制に及ぼす影響	2年間(20~21)	3,000	1	6	1	0	0	8
				小計	3,000					
長期モニタリング	(継続) 堀口敏宏	東京湾における底棲魚介類群集の動態に関する長期モニタリング	5年間(19~23)	10,000	0	8	0	0	0	8
(評価対象18課題、採択・継続決11課題)				小計	10,000					
(後期募集分)										
先見的・萌芽的研究	大木淳之	海洋起源ハロカーボンの生成メカニズムの解明ーインド洋~南極海での船上実験ー	1年間	3,000	3	9	7	0	0	19
	富永篤	シリケンイモリとウシガエルに感染するカエルツボカビの個体群動態に関する研究	半年間	1,500	0	13	7	0	0	20
	岡本卓	八丈島における外来生物による在来種個体群への影響評価	1年間	1,640	0	11	8	1	0	20
	根上泰子	何が希少鳥類の事故死を増加させるか?	1年間	2,880	0	8	9	2	0	19
	石井裕一	緑潮(グリーンタイド)を引き起こす侵入アオサの実態把握	1年間	3,000	1	7	9	3	0	20
	古濱彩子	毒性予測にむけた化学物質と生体分子との分子軌道法による反応モデルの構築	1年間	2,700	1	7	8	4	0	20
				小計	14,720					
(継続)	中嶋信美	マリモの遺伝的多様性と保全に関する研究	3年間(19~22前)	1,280	1	5	2	0	0	8
	中村宣篤	シンデカン接着受容体を利用した第3世代基底膜構造体の創製	2年間(20~22前)	3,000	0	4	2	0	0	6
				小計	4,280					
長期モニタリング	中嶋信美	遺伝子組換えセイヨウアブラナのこぼれ落ちおよび拡散に関するモニタリング	5年間(21~26前)	5,850	2	13	4	1	0	20
(評価対象13課題、採択・継続決定9課題)				小計	5,850					
				平成21年度合計	63,230					

2. 平成22年度特別研究

特別研究4課題を採択した。

タイプ	課題 代表者	研究課題名	研究 期間	年度 予算額 (千円)	事前評価結果					評価 人数
					5 の 数	4 の 数	3 の 数	2 の 数	1 の 数	
ユニ ット 基 盤	林 誠二	窒素飽和状態にある森林域からの窒素流出量の定量評価および将来予測と削減シナリオの構築	3年間 (22~24)	20,000	4	13	3	1	0	21
	角谷 拓	生物多様性の保全をめざす広域的土地利用の最適化ツールの開発	4年間 (22~25)	16,500	5	9	6	2	0	22
	松橋 啓介	気候変動緩和・適応型社会に向けた地域内人口分布シナリオの構築に関する研究	3年間 (22~24)	20,000	1	14	6	1	0	22
	牧 秀明	都市沿岸海域の底質環境劣化の機構とその底生生物影響評価に関する研究	3年間 (22~24)	20,000	2	9	9	1	0	21
(評価対象7課題、採択4課題)				合計	76,500					

3. 平成22年度奨励研究

先見的・萌芽的研究10課題、長期モニタリング2課題の計12課題を採択・継続決定した。

タイプ	課題 代表者	研究課題名	研究 期間	年度 予算額 (千円)	事前評価結果					評価 人数
					5 の 数	4 の 数	3 の 数	2 の 数	1 の 数	
先 見 的 ・ 萌 芽 的 研 究	秋吉英治	MIROC3.2ベース化学気候モデルの開発	1年間	3,000	2	11	4	0	0	17
	塩竈秀夫	気候フィードバックの相関関係について	1年間	2,500	1	14	6	0	0	21
	永野麗子	ヒトES細胞分化系を用いた神経発達に対する新規な残留性有機汚染物質(POPs)の毒性影響に関する研究	1年間	3,000	3	9	8	1	0	21
	河地正伸	海水温上昇に鋭敏に反応するサンゴ共生藻の探索	1年間	3,000	2	12	8	1	0	23
	石森洋行	水溶性有機化合物に対する最終処分場底部遮水工の遮水性評価	1年間	2,720	2	11	8	1	0	22
	佐藤陽美	DNAマイクロアレイを用いた都市大気成分の遺伝子発現プロファイルによる毒性寄与予測手法の開発	1年間	3,000	0	7	7	0	0	14
	富岡典子	霞ヶ浦におけるMicrocystisの増殖活性の履歴がbloom形成に及ぼす影響の解明	1年間	2,900	1	7	6	2	0	16
	安立美奈子	熱帯域の土地利用と植生変化が土壌炭素蓄積量に与える影響解明	1年間	2,800	0	12	7	3	0	22
	小高真希	マウス肝実質細胞を用いた肝実質組織モデルの作製:モデル作製に最適な基底膜モデルの創製	1年間	2,000	0	11	10	2	0	23
	近藤美由紀	放射性炭素同位体を指標とした土壌有機炭素分解特性の検討—長期有機物未投入耕地を利用した温暖化操作実験—	1年間	3,000	0	7	8	1	0	16
				小計	27,920					
長 期 モ ニ タ リ ン グ	(継続) 堀口敏宏	東京湾における底棲魚介類群集の動態に関する長期モニタリング	5年間 (19~23)	10,000	0	7	0	0	0	7
	梁乃申	熱帯林における土壌呼吸を中心とした炭素循環モニタリング	5年間 (22~26)	15,000	3	5	5	3	0	16
				小計	25,000					
(評価対象16課題、採択・継続決12課題)				合計	52,920					

【評価】

- 5 大変優れている
- 4 優れている
- 3 普通 (研究の実施は可とする)
- 2 やや劣る
- 1 劣る